

このコーナーでは、この地域に伝わる民話を紹介し、皆さんからの感想画を募集しています。紹介する民話は、子どもたちに、ふるさとの伝説や昔話を教え、遠い祖先の心や、郷里のぬくもりを少しでも感じてほしいと、松浦市教育委員会が平成4年に再編した「松浦の民話」という本から引用した話です。

むかしむかし、この辺りに、九ぼつ様という、とても乱暴なさまむらいがおりました。大きな重たい金棒をずっしんずっしんとついで、そこを歩くところ、その音が一里(四キロ)四方に響きわたるので、そのうるさいこと、うるさいこと。村中の人は困り果てておりました。

「じやんかして、金棒をつくのほ止めさせる方法のなかじやろか。」
村の人々は集まって、策をねることになりました。

松浦の民話 21

九ぼつ様の二斗もち

その使いが九ぼつ様の所へとまきました。「おつー斗へらいへんこを食って、みんなをびっくりさせてみしゅう。うん、今夜いつちよ稽古してみしゅう。」

早速家の者に急いでもちをつかせる。片っ端からべろりべろりと平らげました。そのうち、夜はしらじらと明け、いよいよ約束の時が来ました。

九ぼつ様が出かけて行くと、庄屋さんの庭ではもちつきの真っ最中でした。間もなく、湯気のふわふわした真っ白なもちが、九ぼつ様の前に並びました。

「おや、どうもお食べませ。そいはってん一つ約束のどさす。もちんはかは絶対食べへはなりました。」

九ぼつ様は、さすがの大食い。みるみるもちの数は減っていきます。しかし、家で食ったもちも腹に残っているし、次第にもちを取る手が遅くなりました。お腹は太鼓

「正月へらい、静かに過ごしたかもんね。ばつてん、きかん気の九ぼつ様のことせん、一筋縄じゃいかんちやなかや。」

知患者の庄屋さんは、頭をひねりひねり、「うん、よかことば思いついた。あしたは二十八日。もちつきたい。大食いの九ぼつ様に、一斗もちば食べさせることししゅう。」

一斗もちば食べさせたら、金棒は俺が預かって、食べせしもうたら文句は言わんつて、こつ約束するたい。いくら九ぼつ様でも、こりやあ参るに違ひなか。」

のようにはんばん突き出てきて、もう前の方を見えないくらいになっていました。うーんうーんうなりながら、最後のもちをぐつと押し込むと、急いで道へ駆け出しました。

「青もんがほしかあ。」
「青もんがほしかあ。」
九ぼつ様は、そう言って家に戻ると、青菜をばりばり食べて、びっくり返って死んでしまいました。

お腹を開けてみたらもちだらけでしたが、ただ青菜の入ったところだけ、もちがとけていたそうです。

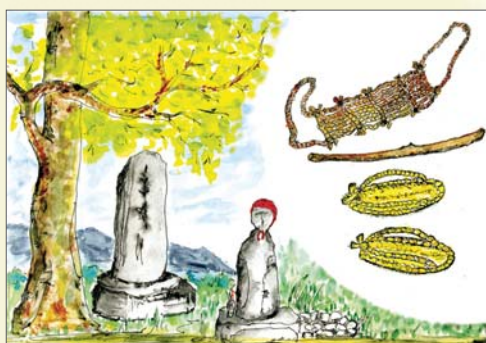
それから後、雑煮を炊くときは、必ず青菜を入れるようになったといわれています。

(御厨町田代)

松浦の民話イラスト

読者の皆さんから寄せられたイラストの審査結果を以下の通りお知らせします。

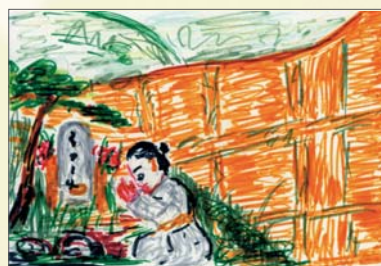
先月の民話「小島新田」のイラストに、2通の応募がありました。ご応募ありがとうございました。



【最優秀賞】

ペンネーム 清真さん(星鹿・星鹿、65)

「静かにたたずんでいる小島新田を見下ろす小高い丘の様子色彩豊かに描かれています。お地藏様の隣には新田作りに使われた道具が描かれてあり、当時の作業の様子を連想させます。」 (い)



【優秀賞】

前田サツキさん(福島・日の浦、71)

「丘の上で娘の墓に手を合わせる平次郎の表情には、温かくやさしい人柄がよく表れています。眼下に広がる新田の様子も印象的です。」 (い)

「松浦の民話」は今月号で終了します。

これまで、民話を読んでいただき、民話イラストへの多数の応募ありがとうございました。

中世の松浦(37) 鷹島海底遺跡

鷹島埋蔵文化財センターでは、鷹島海底遺跡から出土した木製品の保存処理作業を行っています。保存処理はポリエチレングリコール含浸法(PEG含浸法)で行っています。これまで約3百点の木製品が終了しています。

平成6年度の神崎港防波堤工事に伴う緊急発掘調査では、元の軍船で使用されていたと考えられる復元長約7.74(現長2.74)の木製の大椀が発見されました。この大椀から推定されている軍船の長さは約40、幅は約11、乗員は約90人弱と推定されています。

この大椀は平成6年11月に神崎港の海底から発見され、12月に海底から引き揚げられています。その後、平成9年8月までの約2年8カ月かけて椀の中の塩分を抜くため真水と入れ換える脱塩処理作業を行っています。また、ポリエチレングリコール含浸による事前処理と含浸処理に平成20年8月までの約11年間を要しています。その後、平成20年9月から21年3月まで真空凍結乾燥法による処理を行っています。

この大椀は発見から約14年5カ月の歳月をかけて保存処理を行ったこととなります。現在は、空調で管理した専用の展示室で平成21年5月から一般公開をしています。



▲鷹島埋蔵文化財センターで展示している大椀

鷹島海底遺跡で元の軍船発見！！

○問合せ先 生涯学習課☎内線 351

鷹島沖伊万里湾で、730年前の元の軍船(元寇船)が発見されました。

発見したのは、9月30日から10月23日まで鷹島海底遺跡を調査していた琉球大学池田榮史教授らの研究グループ。鷹島町神崎免米ノ内鼻の沖合い約200、水深20から25の海底を約1掘り下げたところからこの軍船を発見しました。

この情報は池田教授から10月24日に長崎県庁記者クラブにおいて報道機関各社に発表され、翌日からの新聞などで大々的に報道されました。

これまで鷹島南岸では、元軍殲滅の地として船の部材や椀・碇石など船舶に関する遺物、「てつはう」や鉄製青などの武器・武具などは出土していましたが、船の船体そのものは発見されていませんでした。軍船の実態は、『蒙古襲来絵詞』で知ることができますが、その実物が海底に実在したことは、世界史的にも大変貴重な発見です。

今回見つかったのは、船底の背骨にあたる竜骨(キール)と呼ばれる部分と、その周辺に整然と並んだ外板。

確認できた竜骨の大きさは、幅約50、長さ約12で、推定される船の長さは20級と見られています。また、船材の上部からは中国製の陶磁器や「てつはう」の破片、磚(レンガ)なども多数発見されています。

池田教授らによる発掘調査は来年度以降も継続して行われる予定です。

池田教授らによる今回の発掘調査の状況および調査映像を鷹島歴史民俗資料館で放映しています。皆様のご来館をお待ちしています。なお、入館料は小学生~高校生は1人140円、大人1人300円です。

